

運営委員会 坂東 優希
六月十八日に武庫川フェスティバルが行わされました。一度は延期となっていましたが、当日まで準備を重ね、素晴らしい一日を作り上げることができました。

武庫川フェスティバル 宙く見つけよう私の輝き、繋げよう私たちの心

今年度のテーマは『宙く見つけよう私の輝き、繋げよう私たちの心』でした。一人ひとりが個性がありを深める姿は、まさにテーマそのものでした。また、舞台発表や素人名人会の出演者と、それを鑑賞する



「啐啄同時」について

教務部長 新田大介

私は世話人の一人としてその会合の準備をすることになつてきましたが、その年に「啐啄同時」という言葉があるのですが、この言葉に初めて出会つたのは今から三十年ほど前のことです。その当時、伊丹・宝塚・川西地区の公立高校の教師で毎週一回会合をもついて、慣例として会合の前に世話人三人が会合の準備をすることになつてきました。その作業中に、社会科の先生が提案してきました。どのような漢字を使うのかを聞いたに留まり、意味を尋ねることもなくほとんど聞き流してしまいました。

十年前に着任した伊丹市内の特別支援学校の校長室の壁に、達筆とは言えないが力強く「啐啄同時」と書かれた額が架っていました。何らかの縁を感じたので、その意味を尋ねました。「啐啄同時」というのは禅宗の言葉で、鳥の雛が卵から孵ろうとするとき、殻の中から卵の殻を突いてトントンと音を出す、「外に出たいよ」と雛が起こすその動作を「啐」といいます。その音を聞いて親鳥はすかさず外から卵の殻をついばんで破つっていく、「頑張って出てきなさい」と促すこの動作を「啄」といいます。「啄」の文字の方は石川啄木の「啄」でよく知られていますが、「啐」の方はほとんど使われることはないでしょうが、「啐」と「啄」が同時にあってはじめて、殻を破つて雛は殻の中から下界へと生まれ出しができるわけです。特別支援学校の子どもは発達段階がひとりひとり大きく異なり、それとともに環境によつて成長する速さも違つてくる。ひとりひとりの子どもがもつていて「伸びようとする内なる力」をしっかりと引き出すために、子どもの様子を絶え間なく敏感に感じ取り、機会を逸すことなくその子どもに応じた適切な支援を行つていくことを常に肝に銘じておこなっています。「啐啄同時」を掲げている。

特別支援学校に限らずすべての教育、親子関係に通じるものがあるので、初めてこの言葉に遭遇した際に、しっかりと受け止めておくべきだったと反省した次第です。

子どもがシグナルを送っているのにも関わらず親が子どもを見向きもしない、そんな具合では子どもの健全に成長は望むべくもないものだろう。また逆に、子どもがシグナルを発していないのに、親が先走つて殻を叩き割つてしまふ、これでは子どもの主体性・自主性を伸ばすことができないどころか潰してしまうことにもなりかねない。改めてこの言葉の大切さを実感したのですが、最近頻繁に思うことは、「子ども」「親」をいろいろなものに置き換えるてみると、この言葉は人間の活動全般に及ぶことではないかということです。



7月号
(第392号)

武庫川女子大学
附属中学校・高等学校
総務部

「啐啄同時」という四文字熟語があります。学生時代に受験勉強で四文字熟語は結構覚えたつもりでしたが、この言葉に初めて出会つたのは今から三十年ほど前のことです。その当時、伊丹・宝塚・川西地区の公立高校の教師で毎週一回会合をもついて、慣例として会合の前に世話人三人が会合の準備をすることになつてきました。その作業中に、社会科の先生が提案してきました。どのような漢字を使うのかを聞いたに留まり、意味を尋ねることもなくほとんど聞き流してしまいました。

私は世話人の一人としてその会合の準備をすることになつてきましたが、その年に世話人三人が会合の準備をすることになつてきました。その作業中に、社会科の先生が提案してきました。どのような漢字を使うのかを聞いたに留まり、意味を尋ねることもなくほとん

たことが制限されています。この武庫川フェスティバルも、開催することができないのではないかと直前まで不安でいっぱいでした。ですが、全校生徒のみなさんが感染対策に協力してくださったおかげもあり、安心して楽しめる一日にすることができました。生徒のみなさんの中にも、様々な制限の中で複雑な思いを抱えている人が多くいると思いますが、今回の武庫川フェスティバルが、みんなに少しでも笑顔や思い出をお届けすることができましたら嬉しいです。

最後になりますが、様々な場面で私たち運営委員会にご協力いただき、本当にありがとうございました。



今年度の武庫川フェスティバルでも、昨年同様、感染症対策を徹底しました。

安田 弥生

今年度の武庫川フェスティバルでも、昨年同様、感染症対策を徹底しました。

ステージ委員会

山本 光優

今年度の武庫川フェスティバルのステージ発表は、新型コロナウイルス感染症対策により、各クラスが事前に録画したものを各クラスの教室で放映する形で実施しました。日頃の練習の成果を友達や家族に披露できた、とても良い機会になったと思います。見てくださったみなさんも、友達の頑張りを見て「自分も頑張ろう」と思えたのではないでしょうか。組んだ全員で一つの舞台を作ることができました。様々な制限の中でも最大限楽しんでもらうことができましたステージ発表になりました

度見たいという生徒の方は、ホームページにてご覧ください。



イベント委員会

佐渡友 らむ

今年の素人名人会は、昨年に引き続き事前に録画した映像を放映する形で行いました。四月末、緊急事態宣言の影響により武庫川フェスティバルが延期され、実施出来るか分からず心配した時期もありましたが、無事成功をおさめることができました。今年は、記念体育館で決められた時間に、中高それぞれ二回ずつ放映する形でお届けしました。ここ二年出演者が激減してしまい、素人名人会を「素人名人会」として開催できるか、実行委員としてとても不安でいっぱいでした。しかし、「自分たちのしたい演技をあの場で披露したい」と沢山の声がエントリーしてくれました。

武庫川フェスティバル当日は、沢山のお客さんが記念体育館に足を運んでください、感染対策を守った声援や温かい拍手をしてくださいました。その姿を間近で見て、ここまで頑張つ

ました。

運営委員会 小林 沙都
今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で体育館からの生放送という形になつてしましました。とうございました。今後も引き続き、コロナ対策を徹底していきましょう。



